

橘樹官衙遺跡群跡(川崎市)

ここは「たちばな古代の森緑地」/国指定史跡橘樹官衙遺跡群跡である



橋樹官衙遺跡群跡は、武蔵国橋樹郡衙(郡家)正倉跡と考えられる千年伊勢山台遺跡と、評の役所の施設の可能性がある掘立柱建物跡なども検出された郡寺跡である影向寺遺跡からなる



子母口、千年コース (最大標高差: 33m)



～マナーを守り気持ち良い散歩を心がけましょう。～

色々横断幕が張られている



ここから緑地内に入ってみよう



説明板が立っていた/ここ、千年伊勢山台遺跡では、評の役所の成立直前から郡家正倉廃絶に至る4時期の変遷が確認された/遺跡は7世紀後半に大壁建物が造られることを契機に、7世紀後半から8世紀には、規則性をもって配置された総柱建物4棟と側柱建物6棟が造られ、8世紀前半には、建物の主軸をほぼ真北にそろえる少なくとも13棟の総柱建物が造られる/これらの建物は9世紀中頃には廃絶しており、評と郡の正倉の構造の違いや、本格的な郡家正倉へ整えられていく様子うかがえる



橘樹郡衙推定地の建物跡



地方官衙の成立から廃絶に至るまでの経過をたどることができる希有な遺跡であり、その成立の背景や構造の変化の過程が判明するなど、7世紀から10世紀の官衙の実態とその推移を知る上で重要である

解 説

橘樹郡衙推定地では、稲などを保管した倉庫と考えられる総柱建物^{そうぼしら}21棟や郡の役人が仕事をしてきた官舎などと思われる側柱建物^{がわばしら}20棟以上・床束建物^{ゆかつか}1棟、区画や目隠しなどのための塀8条・溝8条とともに、土師器^{はじき}・須恵器^{すえき}・円面硯^{えんめんけん}・鉄製刀子^{てつす}など、当時使われていた土器や文房具類などが発見されています。ただし、郡衙の中心的建物である郡庁^{ぐんちやう}(政庁)は、まだ発見されていません。これらの建物跡は、約150年の間にⅠ期(7世紀後半から8世紀初頭)→Ⅱa期(8世紀前半から中葉)→Ⅱb期(8世紀中葉から後半)→Ⅱc期(9世紀前半)と移り変わっています。Ⅰ期は、品の字配置の倉庫群のように建物はすべて主軸を北から西に30度ほど傾けて建てられているのが大きな特徴です。それがⅡa・b期になると、建物は軸や配列を東西南北の方位に合わせてきれいに並べられ、官衙が大規模に整備されます。そしてⅡc期になると建物は小さくなって数も減っていき、9世紀の中頃には官衙としての役割を終えたと考えられます。

橘樹郡衙推定地の北西には古墳時代の川崎を支配していた豪族の墓である西福寺古墳^{さいふくじ}や馬絹古墳^{まぎぬ}などの梶ヶ谷古墳群^{かしがや}があり、その豪族の拠点^{こつぞく}が橘樹郡衙推定地周辺ではないかと考えられます。影向寺境内の発掘調査では、影向寺が創建される7世紀末以前に建てられた豪族の館^{りつりやう}と考えられる掘立柱建物跡も発見されています。豪族は後の律令体制のもとでも郡司^{ぐんじ}となって館の近くに橘樹郡衙と橘樹郡の公的な寺(郡寺)である古代の影向寺を造営して、引き続いて古代の川崎を支配したのではないかと考えられます。

石碑も立っていた



橋樹郡衙（たちばなぐんが）は奈良・平安時代の武蔵国橋樹郡の役所で、七世紀後半に造営されました。

ほぼ同じ頃には影向寺も橋樹郡の寺として創建され、この丘は古代川崎の政治・文化の中心地でありました。

川崎高津ロータリークラブは創立二十五周年を記念し、郷土の誇りとしてここに石碑を建立するものであります。

平成二十二年五月吉日

川崎高津ロータリークラブ

そこから先程の説明板方向を見たところ



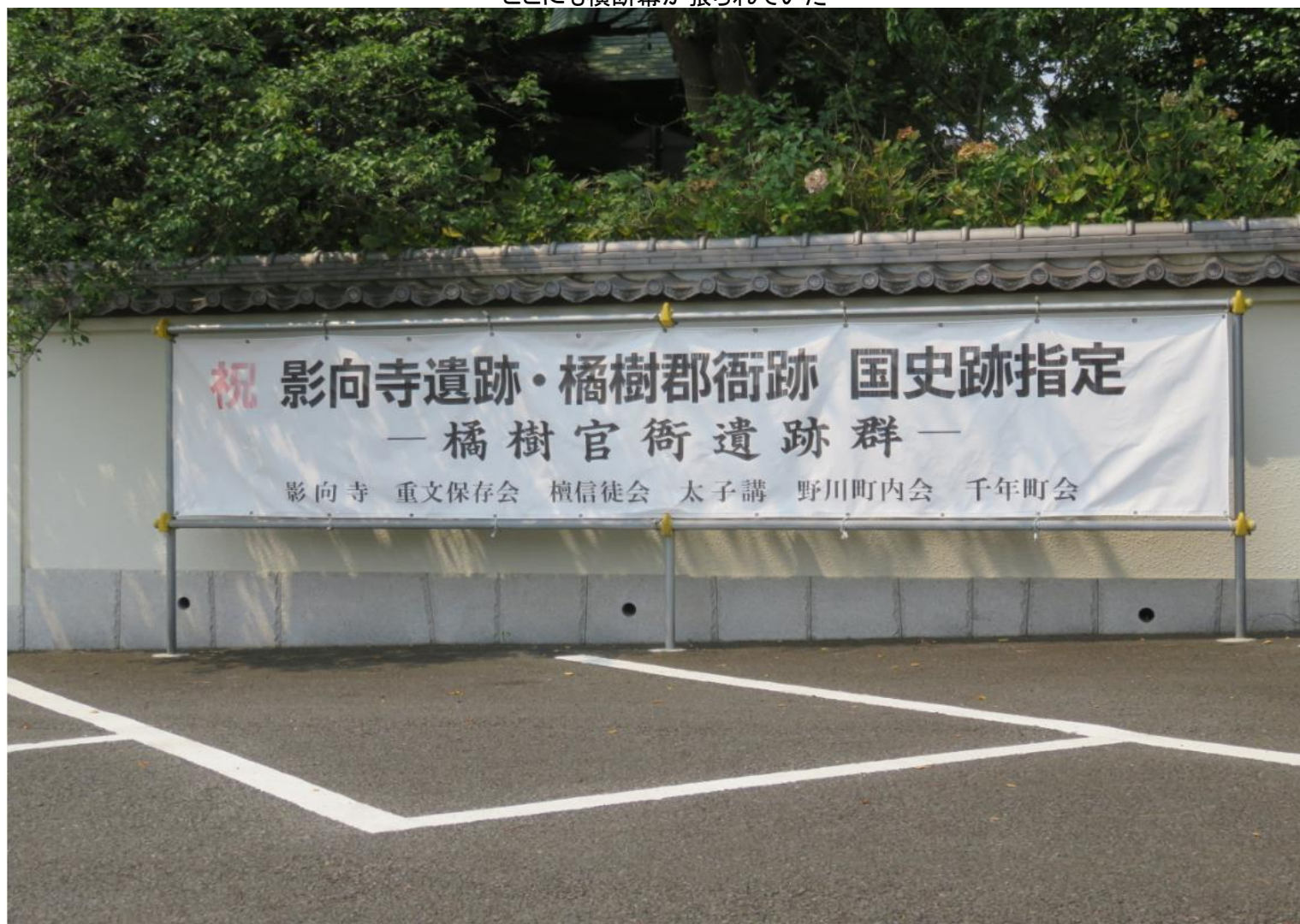
隣地でも発掘調査が行われているようだ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここは近くに所在する影向寺



ここにも横断幕が張られていた



橘樹郡の郡寺であったとされ、7世紀後半から8世紀前半に創建され、8世紀中頃には塔の造営と金堂の改修が行われ、10世紀初頭まで補修が行われていたことが確認されている/出土瓦などから、南武蔵の中心的な寺院であったと考えられる

影向寺

当寺は、天台宗に属しています。縁起によれば、天平十一年（七三九）光明皇后が、病氣のおり、聖武天皇は夢告で武蔵国橘樹郡橘郷、すなわちこの地に靈石のあることを知り、早速、当時の高僧行基を使わし祈願させたところ靈験あらたかで、皇后の病氣も快ゆされたという。そして聖武天皇の勅命により、この地に伽藍がそびえたのは、その翌年のことであると伝えていきます。事実、境内から採集された古瓦の中には、奈良時代のものが含まれており、当寺の創建が縁起に近いことがわかります。

境内の安置堂内には、当寺が古刹であることをうらづける数多くの文化財が所蔵されています。

重要文化財に指定されている、本尊の木造薬師如来坐像（椀材）と両脇侍立像（椀材）の三軀は、一木造で、平安時代後期の作品です。

風格のあるおだやかな表情とあふれる量感が特徴的です。この本尊には、木造二天立像二軀（平安時代後期）と木造十二神将立像十二軀（室町時代）が眷属として侍立しています。また、木造聖徳太子立像一軀（室町時代）もあり、いずれも川崎市重要歴史記念物に指定されています。

薬師堂は、江戸時代初期の万治年間（一六五八～一六六〇）に火災で失い、その後まもなく復興したと伝えられているもので、現在の薬師堂がそれにあたるものとおもわれます。建立の時期は建築様式上の特徴から、寛文頃（一六六一～一六七二）のものであるとされています。

境内の東南隅にある影向石は、縁起でいう靈石にあたるものでしょうが、その実際上の用途は、塔の心礎であろうといわれています。また、江戸時代の民衆が本尊によせてきた信仰を物語る絵馬や昔話の舞台となった乳をこぐ母親が祈願したイチヨウの大木など、当寺にかかわる歴史的な話題は数多く伝えられています。

川崎市教育委員会
重要文化財保存会

これは境内に残る影向石/塔の心礎と云われる



(クリックしてビデオを見る)

影向石

当寺のいわれとなった霊石。奈良朝に本寺創建のとき、ここには美しい塔が建てられ、その心礎として使用されました。心礎には仏舍利が納められ、寺院の信仰の中心となります。「影向」とは神仏の憑りますところのことです。寺域は太古より神聖な霊地、神仏のましますところとして、信仰されていたものでしょう。幾星霜をへ、塔が失われた以降、この影向石のくぼみには常に霊水がたたえられて乾くことなく、近隣から眠を患う人々が訪れて、その功験によっていやされました。江戸のはじめ元治年間に薬師堂が火を交ると、本尊薬師如来は自ら堂を出でて、この石の上に難をのがれたといわれ、それ以来、栄興あるいは養光の寺名を影向とあらためたと伝えられます。

昭和五十一年五月吉日

重要文化財保存会

さて、前方が近くの梶ヶ谷第3児童公園に復元・整備された西福寺古墳/6世紀中頃～後半築造の円墳/南側から見たところ



築造時期的には近くに所在する古代橘樹郡衛の造営に関わった豪族の祖先の古墳ではないかと云われるが...

西福寺古墳

西福寺古墳は、矢上川左岸に築かれた高塚古墳群の中にあつて、規模が大きく、保存状態も極めて良好です。

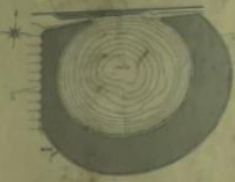
昭和五七(一九八二)年、古墳の景観整備の一環で行われた発掘調査の結果、この古墳が築かれたのは、六世紀中頃から後半と考えられ、直径約三十五メートル、高さ約五・五メートルの円墳で、墳丘の周囲には幅六〇七・五メートル、深さ約八十センチの溝(コンクリートブロックで舗装されている部分)がめぐらされていたことがわかりました。

また出土した埴輪の中には、水鳥を模した埴輪の頭部も発見されています。

現在の西福寺古墳は、その成果に基づいて復元・整備をされたもので、昭和五五(一九八〇)年九月二六日、神奈川県史跡に指定されています。



水鳥を模した埴輪の頭部



平面図



断面図

平成十一(一九九九)年三月

川崎市教育委員会

古墳の保護のため、植え込みの中に入らないようお願いします。

こちらは馬絹神社の背後に「馬絹古墳公園」として整備、保存されている馬絹古墳/主体部は複室構造の両袖型横穴式石室の円墳/7世紀後半の築造



築造時期的にも近くに所在する古代橘樹郡衛造営に関わった豪族の古墳ではないかと云われるが・・・

馬絹古墳

馬絹古墳は、現状の墳丘の直径が約33m、高さが北側で約3m、南側で約4.5mほどの円墳です。墳丘の周りには幅約3.5m・深さ約1.5m前後の溝がめぐらされています。

この古墳は、まずローム層(赤土)まで掘りこみ、遺体を安置する石室を組み立て、その外側に赤土と黒土とを順序よく細かく積み上げてつくられています。また墳丘の表面には、手のひらほどの大きさの河原石が敷きならべられていました。

石室は、全長が9.6mもある大形の横穴式石室で、内部は3つの部屋に分けられています。この石室は、四角に切った泥岩を組み合わせながら、天井に向けて少しづつせばめて積んでいく「持ち送り式」という技法で、ていねいにつくられています。そして石が接合する部分には、白い粘土が帯のように塗られており、ほかにも同じ白い粘土を使って、まるい形や今では形がはっきりわかりませんが、何らかの模様が描かれていたようです。

馬絹古墳がはじめて発掘された時には、すでに遺体は残っていませんでしたが、鉄の釘が発見されていますので、遺体は木でつくった棺に入れられていたと思われるようです。しかも鉄釘は79本もありましたので、棺は1つだけではなかったようです。ただ、遺体といっしょに置かれていたと思われる品物(副葬品)は、盗掘されて持ち去られてしまったようですので、馬絹古墳が作られた年代などがわかるはっきりした証拠は不足していますが、石室の形やつくり方、設計の方法などから、7世紀の後半ごろにつくられたと考えられます。

これらは、昭和46年の発掘調査や平成2年の保存整備調査などによって明らかになりました。そして、馬絹古墳は古墳時代の終わりごろの様子を伝える重要な古墳として、昭和46年12月21日に神奈川県の史跡に指定されました。

平成6年3月

川崎市教育委員会

参考ホームページ

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/286870>

<http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000093308.html>

<http://takatsu-machinet.kazekusa.jp/magazine/68.pdf#search=%27E6%A9%98%E6%A8%B9%E5%AE%98%E8%A1%99%E9%81%BA%E8%B7%A1%E7%BE%A4%E8%B7%A1%27>

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~itou/deki/dekiyy/acontenty64.htm>

https://blogs.yahoo.co.jp/simada7126/28776224.html?_vsp=5qmY5qi55a6Y6KGZ6YG66Leh576k6Leh

<https://sanpo-nikki.com/etc/chitoseiseyamadaiiseki/>

